

創薬支援サービスの強化をメインとした新施設
「Centre for Predictive Drug Discovery (仮称)」の開設について

この度、当社グループでは、創薬支援サービスをさらに拡充することを目的として、新施設「Centre for Predictive Drug Discovery (仮称)」(以下、本施設)をスコットランドのReproCELL Europe Ltd.内に開設することとなりましたので、お知らせいたします。開所は2017年4月を予定しております。

現在、日本やアメリカ、ヨーロッパでは、iPS細胞を含む幹細胞の臨床応用に向けた動きが活発化しており、特にヨーロッパにおいては、臨床応用可能なiPS細胞のバンキングについて、高い関心が寄せられています。

iPS細胞の臨床応用に関しては、リスクが少なく、より安全性の高いiPS細胞の作製技術が求められます。当社では、RNAリプログラミング法を用いた安全性の高いiPS細胞の樹立サービスを行っておりますが、現在本サービスがヨーロッパにおいて大変注目されており、引き合いが増加傾向にあります。

さらに、ヒトの様々な細胞を活用した創薬支援事業は、今後さらに世界規模での市場拡大が見込まれるとともに、顧客からのニーズは多様化しております。

当社グループでは、iPS細胞の培養や作製、分化誘導技術をはじめとして、3次元培養技術、ヒト組織を用いた試験の受託など、細胞に関わる様々な技術リソースを有しております。

今回、創薬支援サービスの需要がより高まっているヨーロッパにおいて、本施設を開設し、当社グループの各拠点にて保有していた技術リソースを一か所に集中させることにより、多様化する顧客ニーズに細やかに対応することが可能となります。

また、様々な技術リソースを複合的に活用する事により、将来的には創薬支援サービスだけでなく、新たに個別化医療に関するサービスの提供を計画しております。個別化医療は、患者本人の細胞を使って検査をする事により、個人の体質や病気の種類に合わせて、副作用が少なく、効果の高い薬の選択を行う事ができるものです。

当社代表取締役社長の横山周史は「当社グループでは現在、第二の成長段階である創薬支援分野の拡大・強化に努めております。本施設は、当社グループが有する技術リソースを結集させることにより、世界に類を見ない、様々なヒト細胞を活用した幅広い創薬支援サービスや個別化医療に関するサービスを提供する拠点として、事業拡大に大きな役割を果たしてまいります。」と述べております。

本施設は、ライフサイエンス事業の推進に力を入れているスコットランド政府下の特殊法人であるスコットランド開発公社による補助金(RSA Grant)を活用し、設備や人員の整備を行う予定であり、本施設の新設による平成29年3月期における業績への影響は軽微であります。

<Centre for Predictive Drug Discovery (仮称) について>

- (1) 仮名称 Centre for Predictive Drug Discovery
(2) 所在地 グラスゴー、スコットランド
(3) 敷地面積 431平方メートル
(4) 開所予定 2017年4月

